

晴天の夷王山まつり

6月18日、夷王山神社例祭が執り行われ、合わせて夷王山まつりが開催されました。

まつり前日は、柔道、剣道、空手道の3少年団による『たいまつ行列』が行われ、各少年団に所属する団員約30名が、たいまつを持ちながら上ノ国八幡宮を出発し、夷王山神社に続く山道を登りました。

まつり当日は、毎年恒例のばん馬競争やカラオケ大会などのほか、地元的女性農業者や地域の飲食店による出店も立ち並び、会場の賑わいに彩りを添えていました。また、演歌歌手・山本譲二の歌謡ショーも行われ、これまでにならぬ程の天候に恵まれたこともあって、来場者は約2500名にも上り、夷王山からは催しを楽しむ大勢の方々の声がこだましていました。



上ノ国を偲ぶふるさと会

6月24日、札幌近郊在住の本町出身者で構成される『札幌上ノ国ふるさと会（福島久平会長）』の総会懇親会が札幌市内のホテルで開催され、会員や本町からの参加者を合わせて約60名が参加し、旧交を温めました。

総会では、福島会長や本町から出席した佐藤副町長、片石副議長が挨拶を行い、会の1年の活動や本町の出来事、新たな事業などが報告され、お互いの近況を交換しました。

また、懇親会では、出身地区ごとのテーブルで再会を祝いながら交流が行われたほか、物産販売コーナーでは、ふるさとの味が地元から持ち込まれ、昔懐かしいかたもちや根ホッケ、しいたけなどを多くの会員が買い求め、故郷を懐かしんでいる様子でした。



上ノ国救難所、50年の歩み

6月17日、日本水難救済会上ノ国救難所（花田英一所長）が設立から50周年を迎え、所員など約50名参加のもと記念式典がジョイ

式典の挨拶では、花田所長から本町救難所が地域の水難事故にいち早く対処するために、地元の海岸を熟知した漁業者によって設立された経緯が語られ、漁業者や釣り人の救助や事故防止の啓発にこれからの取り組みでいくとのことが話されました。

また来賓挨拶として、救難所の設立にも関わった市山亮悦前所長から、設立のきっかけともなった昭和40年代の水難死傷事故の教訓が語られ、それから海で死者を出さない誓いを仲間とともに守ってきたことが話されました。また、本町救難所では、当該事故以来、本町の水難事故で死傷者を出してないことから、今後とも訓練に励むとともに、漁業者や釣り人への事故防止の啓発を行っていくとのことでした。



「火」に立ち向かう消防団 総合演習で練度高める

6月11日、上ノ国消防団の全9分団と婦人防火クラブから85名が参加した総合演習が、役場前駐車場にて実施されました。

会場では、整然と並んだ各分団の隊列が凛々しく行進し、火災を想定した放水訓練を行うなど、現場にて必要となる技術訓練を行いました。

本町では毎年、必ず数件の火災が発生しており、それはいつ自らの身に降りかかるかわかりませんが、消防団はそのいつかのため、地域のためにこうした訓練を積み重ねています。

私達もこれらの努力に報いるため、火災を起こさない『減災』の心構えを新たにしましょう。

